



# 2011年3月期 決算説明会

## 大平洋金属株式会社

2011年6月9日

ホームページURL : <http://www.pacific-metals.co.jp>

お問い合わせ先 : 総務部(IR担当)

TEL : 03-3201-6681

# 目 次

<b>I 震災の影響</b>	
◆震災の影響	
1. 震災当日の状況	3
2. 被害概況	4
3. 震災の影響と対応及び現状	5
<b>II 11.3期 決算実績</b>	
◆11.3期 決算実績	
1. 概要	7
2. ニッケル事業	8
3. 国別販売実績	9
4. 連結経常損益の分析〔10.3実績対11.3実績〕	10
<b>III 12.3期 決算見通し</b>	
◆12.3期 決算見通し	
1. 概要	12
2. ニッケル事業	13
3. 国別販売見通し	14
4. 連結経常損益の分析〔11.3実績対12.3予想〕	15
<b>IV 今後のニッケル需給の見通しについて</b>	
◆今後のニッケル需給の見通しについて	
1. LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移	17
2. 世界のステンレス生産とニッケル需給	18
3. 地域別ステンレス・ニッケル需給見通し	19
<b>V 経営課題への取り組み</b>	
◆投資内容	21
◆安定した鉱石調達への取組み	
1. ニッケル鉱石安定調達策	22
2. 湿式製錬への取組み	23



# I 震災の影響

# ◆ 震災の影響

## 1. 震災当日の状況

「東北地方太平洋沖地震」本震発生  
 発生日時： 平成23年3月11日(金) 14:46



14:46

- 地震発生と同時に停電
- 直後に津波警報発令

15:00

- 炉の安全確認。所内全員指定の高所に避難
- 社長を本部長とする「危機対策本部」を設置
- 地震発生30分後大津波警報に



17:00

- 17時以降も津波(最大6.2m)が断続的に襲来

# ◆震災の影響

## 2. 被害概況

11.3期にて 主に原状回復を目的とした災害による損失32億円を計上

### 災害による損失

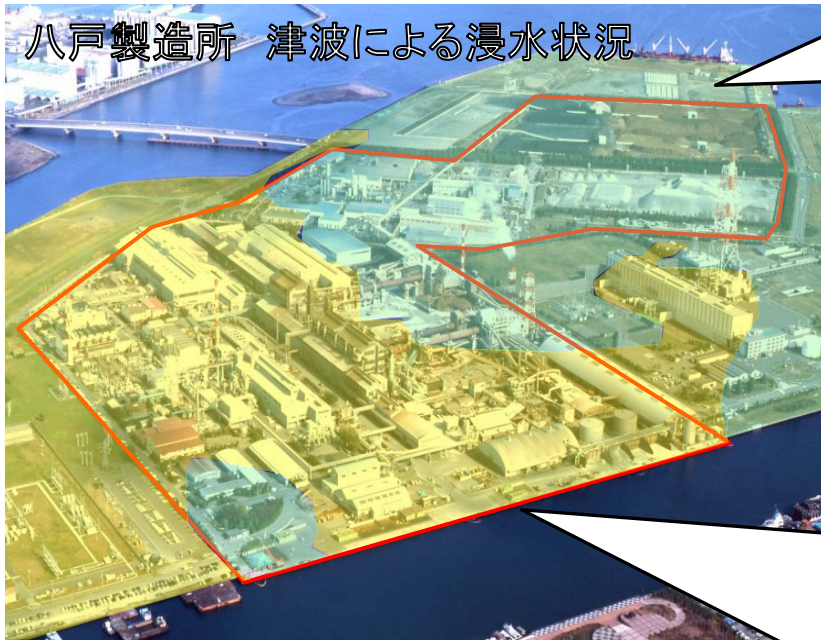
百万円

生産設備復旧費用等	2,679
たな卸資産損害、再処理費用等	498
その他	74
計	3,252

津波による被害の一部



八戸製造所 津波による浸水状況



水深1~2m

水深2~4m



# ◆震災の影響

## 3. 震災の影響と対応及び現状

影響		対応及び現状	11年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
<b>建屋及び設備 について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構内建屋に大きな被害なし</li> <li>・構内広域にわたり浸水、流入物多量</li> <li>・主たる設備の電気炉、キルン、受電設備に損傷なし</li> <li>・自家発電設備に損傷あり</li> <li>・付帯設備の一部に損傷あり</li> <li>・操業全面ストップ</li> </ul>	構内流入物の除去	完了											
	付帯設備の点検・修理	順次進行、概ね完了											
	3系列生産設備のうち2系列(7号炉、8号炉)	立上げ 通電開始											三炉体制へ
	残り1系列(6号炉)	改修中 (PAMCO-24にて6月からの改修予定を前倒し)											
	自家発電修理	完了											
	<b>原材料、製品 について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱石在庫に殆ど被害なし</li> <li>・製品在庫の大半が津波により潮濡れ被害</li> <li>・貯蔵品等の一部に津波被害</li> </ul>	フェロニッケル販売	フォースマジュール宣言										
潮濡れ製品		品質変異調査											
損傷・流出貯蔵品等		調査・調達											
<b>港湾設備 について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品出荷用港湾施設に損傷あり</li> <li>・鉱石船用航路・岸壁は船舶、車両沈没等で喫水確保に難</li> <li>・防波堤に損傷あり</li> </ul>	製品出荷港湾施設	復旧作業中											
	船積完了鉱石	荷揚・転売完了											
	航路・防波堤・岸壁の復旧	荷揚開始 復旧作業中											

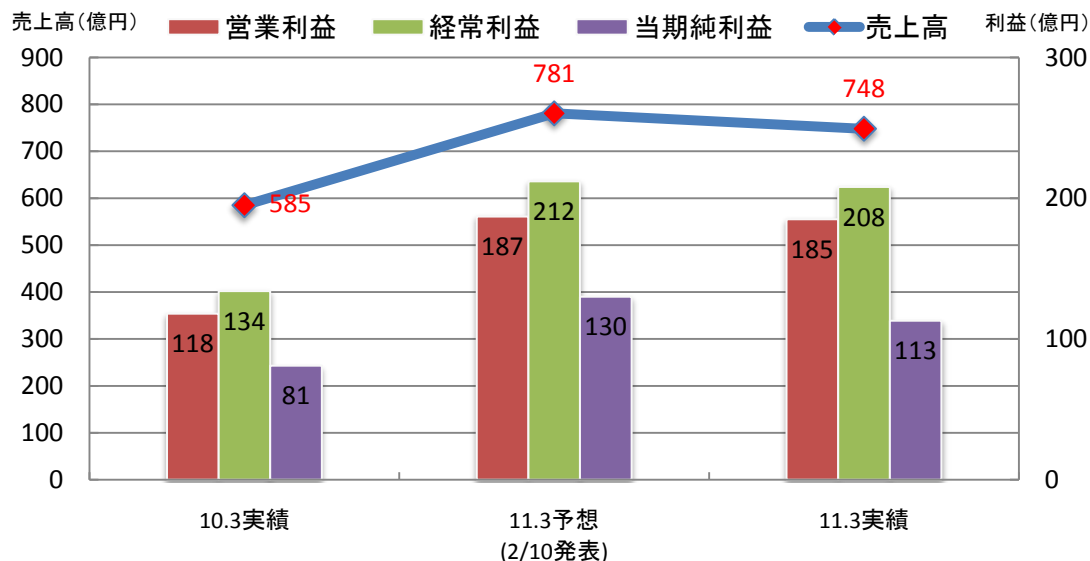


# Ⅱ 11.3期 決算実績



# ◆11.3期 決算実績

## 1.概要



### TOPICS

#### ◇ ニッケル事業

国内ステンレス鋼業界における輸出の陰りや、また輸出先のうち中国において期中在庫調整、環境対策を目的とした電力供給制限により一時的に生産調整局面が見られたが、その影響は限定的。

全般として概ね堅調に推移。

#### ◇ その他

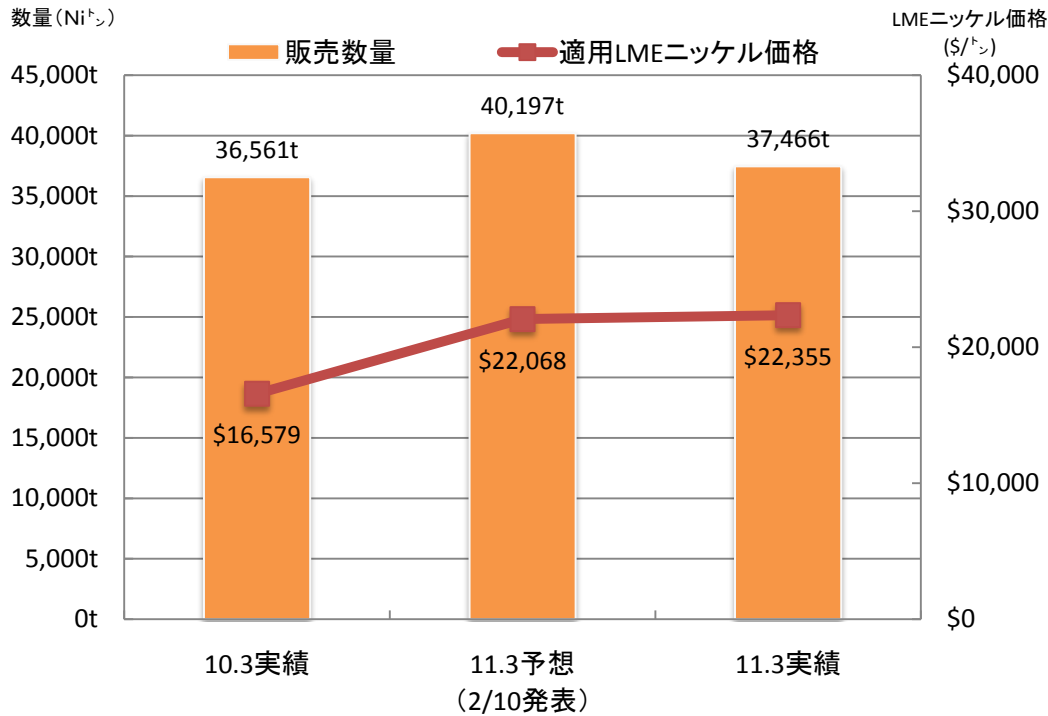
電力卸事業やガス事業の売上高及び営業利益が順調。

金額単位:百万円	10.3実績		11.3予想(2/10発表)		11.3実績			対前期比 (%)	対2/10発表予想比 (%)
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	構成比率		
売上高	58,490	—	78,139	—	74,786	—	100.0	27.9	△4.3
ニッケル事業	56,644	—	—	—	72,954	—	97.5	—	—
その他	2,039	—	—	—	2,069	—	2.8	—	—
連結に伴う調整	△193	—	—	—	△237	—	△0.3	—	—
営業利益	11,774	20.1	18,693	23.9	18,495	24.7	100.0	57.1	△1.1
ニッケル事業	11,689	20.0	—	—	18,392	24.6	99.4	—	—
その他	65	0.1	—	—	90	0.1	0.5	—	—
連結に伴う調整	20	0.0	—	—	13	0.0	0.1	—	—
経常利益	13,441	23.0	21,223	27.2	20,768	27.8	—	54.5	△2.2
当期純利益	8,140	13.9	13,024	16.7	11,261	15.1	—	38.3	△13.5
(設備投資額)	8,866	—	—	—	1,987	—	—	—	—
(減価償却費)	3,564	—	—	—	5,494	—	—	54.1	—



# ◆11.3期 決算実績

## 2. ニッケル事業



### TOPICS

- ① 販売数量  
本年3月に津波による生産停止、製品の潮濡れ被害及び港湾施設の損傷のため止む無く不可抗力宣言を行っての出荷停止は、販売数量に大きな影響を及ぼすも、対前期比国内向け、輸出向け共に増加。
- ② 適用LMEニッケル価格  
ニッケル供給過剰との見方があったものの、順調なステンレス鋼生産伸長からの需要等によって好調に推移。
- ③ 適用為替  
為替は¥85.92/\$と前期比7.4%(¥6.85/\$)の円高となり、販売価格を押し下げ。

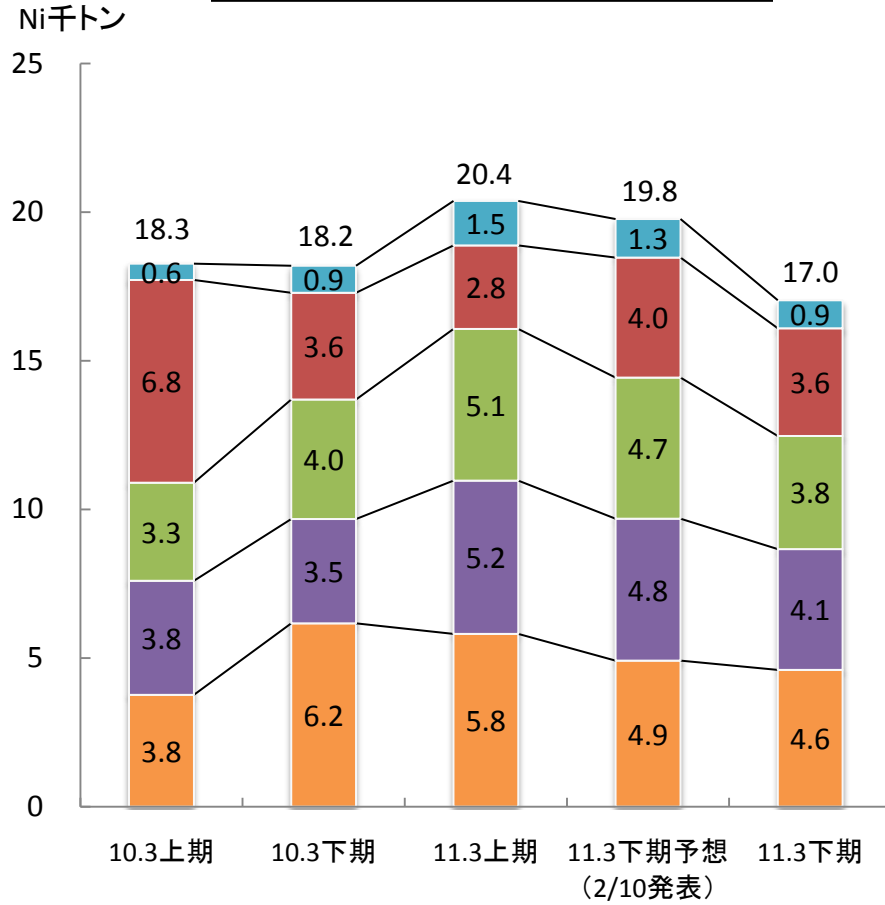
	10.3実績	11.3予想 (2/10発表)	11.3実績	対前期比(%)	対2/10発表 予想比(%)
販売数量(Ni <sup>t</sup> )	36,561	40,197	37,466	2.5	△6.8
適用LME(\$/t)	16,579	22,068	22,355	34.8	1.3
【適用LME(\$/lb)】	【7.52】	【10.01】	【10.14】	—	—
適用為替(¥/\$)	92.77	85.14	85.92	△7.4	0.9

# ◆11.3期 決算実績

## 3.国別販売実績〔10.3実績対11.3実績〕

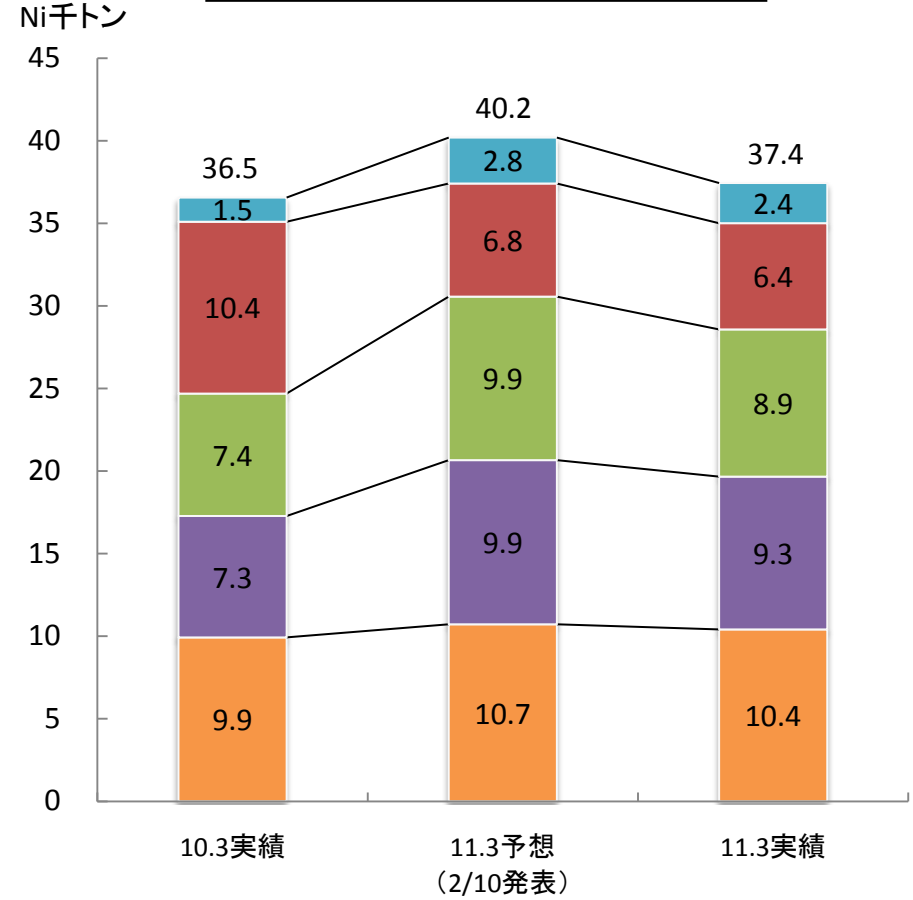
当社のフェロニッケル販売数量(国別)実績

10.3期実績～11.3期実績推移(半期)



国内 韓国 台湾 中国 インド

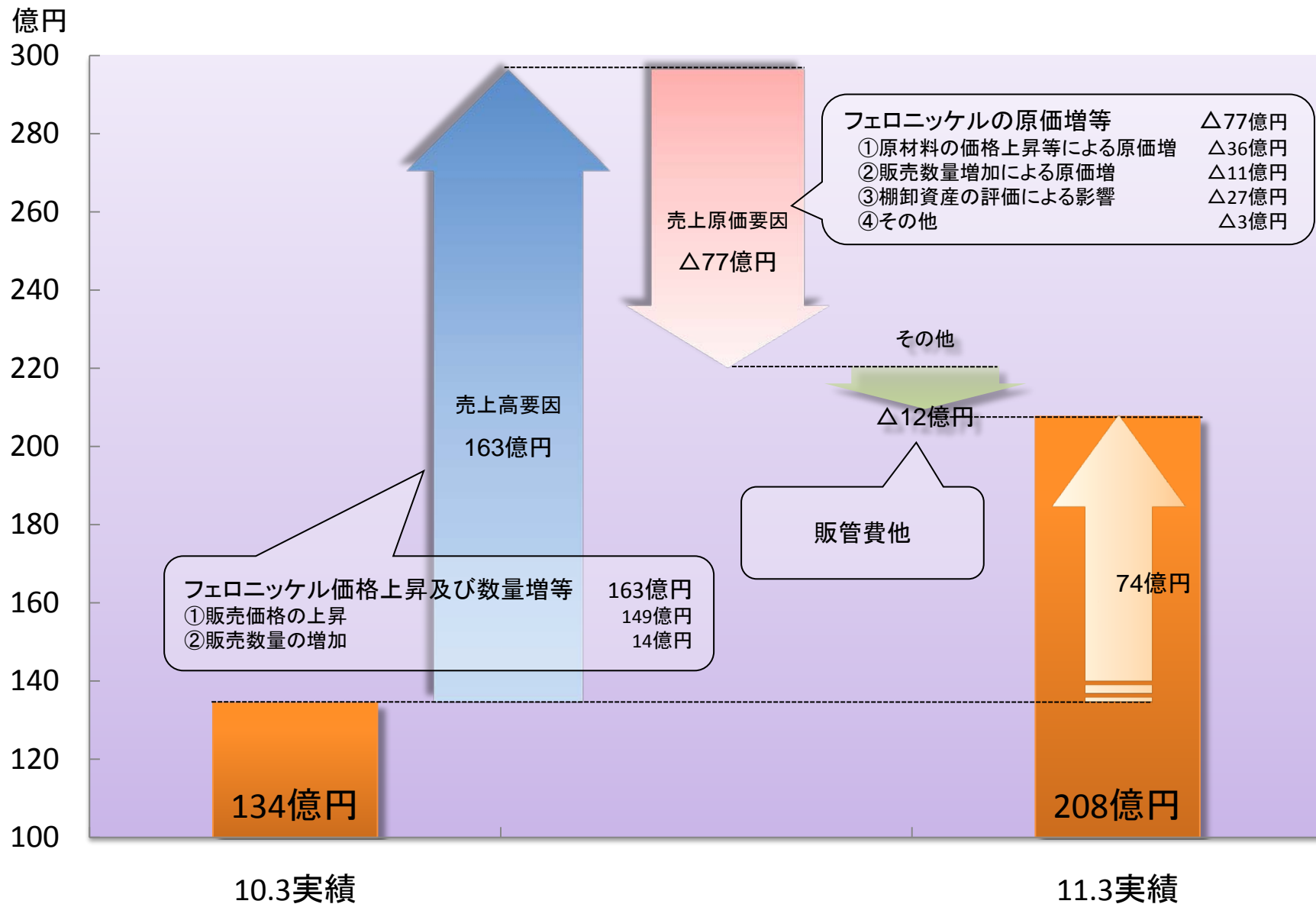
10.3期実績～11.3期実績推移(通期)



国内 韓国 台湾 中国 インド

# ◆11.3期 決算実績

## 4.連結経常損益の分析〔10.3実績対11.3実績〕

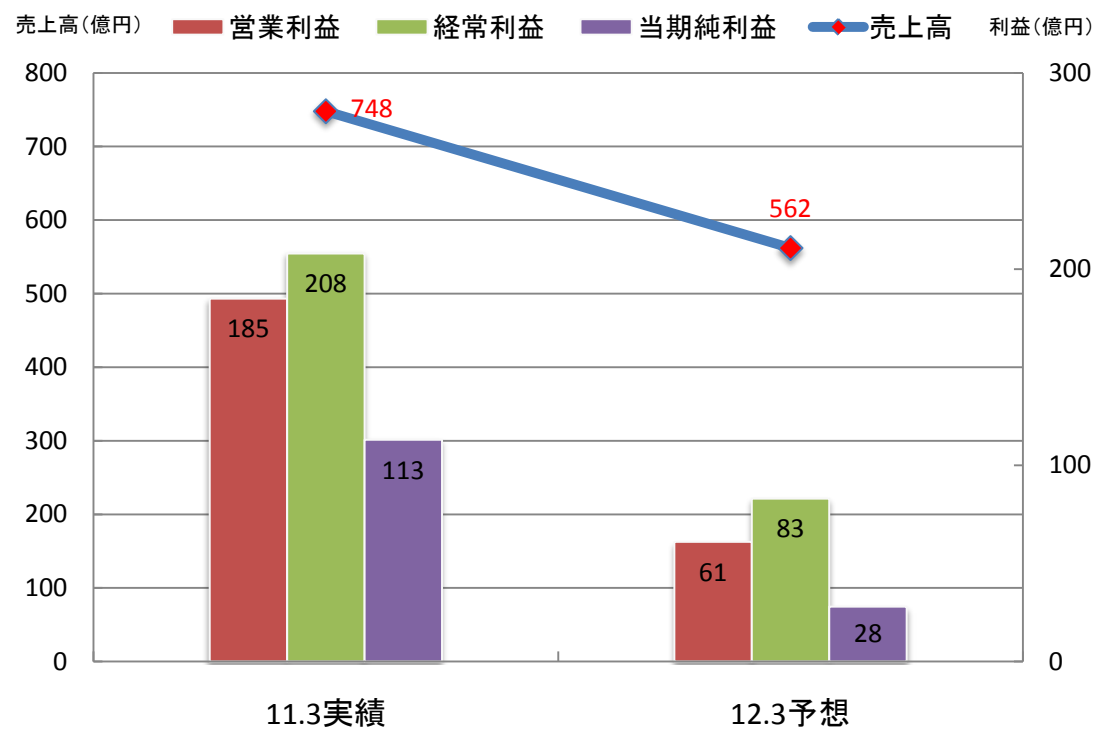




# Ⅲ 12.3期 決算見通し

# ◆ 12.3期 決算見通し

## 1.概要



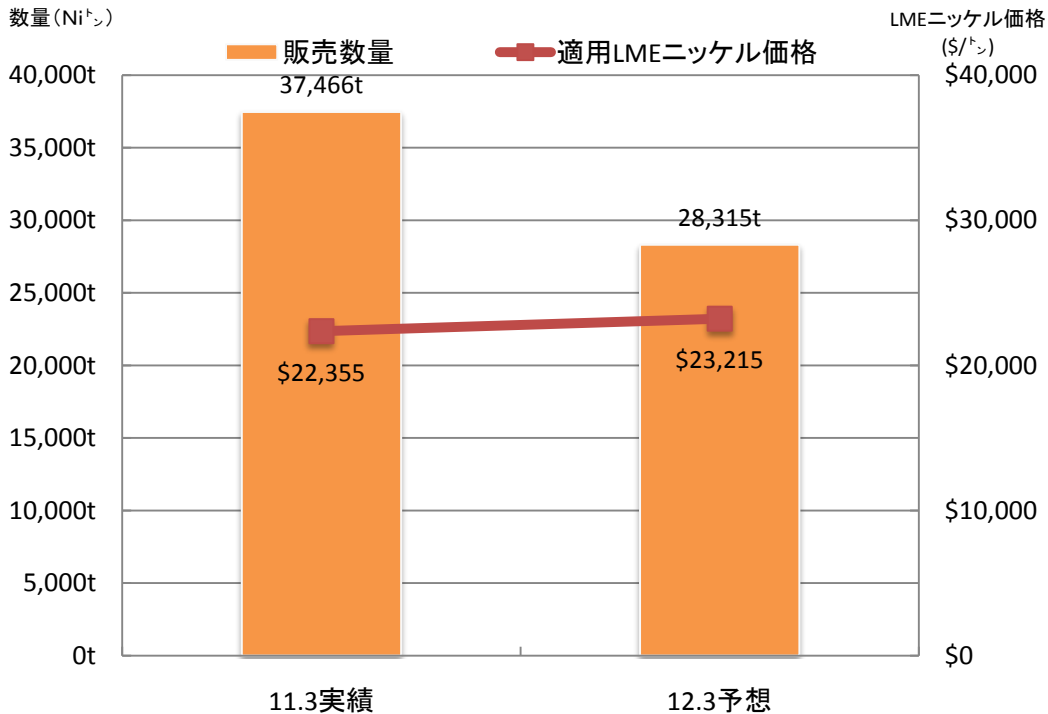
**TOPICS**

- ◇ ニッケル事業  
 需要は前期に引き続き堅調な推移を見込むも、震災の影響により、第1四半期の販売が見込めず数量大幅減。  
 第2四半期からの出荷を目指す。
- ◇ その他  
 震災の影響があるも、電力卸事業やガス事業の売上高及び営業利益は堅調に推移することを見込む。

金額単位:百万円	11.3実績		12.3予想		対前期比(%)
	金額	利益率	金額	利益率	
売上高	74,786	—	56,210	—	△24.8
営業利益	18,495	24.7	6,125	10.9	△66.9
経常利益	20,768	27.8	8,308	14.8	△60.0
当期純利益	11,261	15.1	2,781	4.9	△75.3
(設備投資額)	1,987	—	13,496	—	—
(減価償却費)	5,494	—	7,008	—	—

# ◆ 12.3期 決算見通し

## 2. ニッケル事業



### TOPICS

- ① 販売数量  
新興国等の旺盛な需要に支えられ、第2四半期からは通常の販売数量を見込むも、震災の影響により販売数量減。全体で24.4%減。
- ② 適用LMEニッケル価格  
当社適用LMEニッケル価格は、前期比3.9%上昇となり、販売価格を押し上げ。\$23,215/トン、\$10.53/lb。
- ③ 適用為替  
為替は¥81.56/\$と前期比5.1%(¥4.36/\$)の円高となり、販売価格を押し下げ。

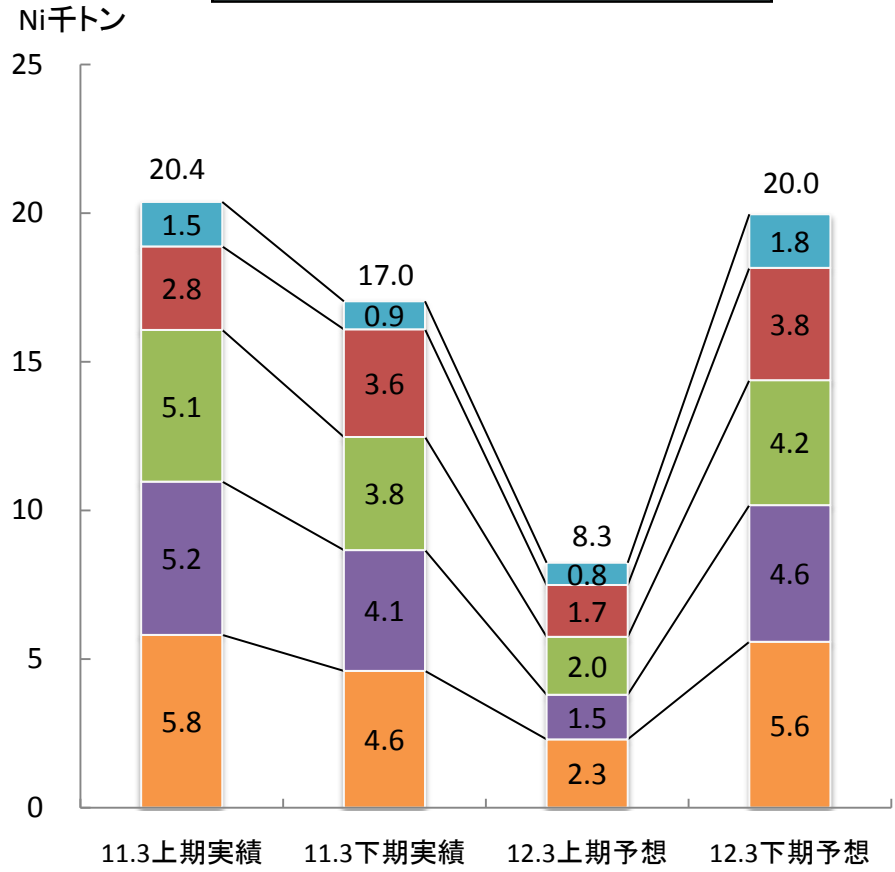
	11.3実績			12.3予想			対前期比(%)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
販売数量(Ni <sup>+</sup> t)	20,430	17,036	37,466	8,305	20,010	28,315	△ 24.4
適用LME(\$/トン)	21,473	23,391	22,355	24,846	22,553	23,215	3.9
【適用LME(\$/lb)】	【9.74】	【10.61】	【10.14】	【11.27】	【10.23】	【10.53】	—
適用為替(¥/\$)	88.74	82.53	85.92	81.57	81.56	81.56	△ 5.1

# ◆ 12.3期 決算見通し

## 3. 国別販売見通し〔11.3実績対12.3予想〕

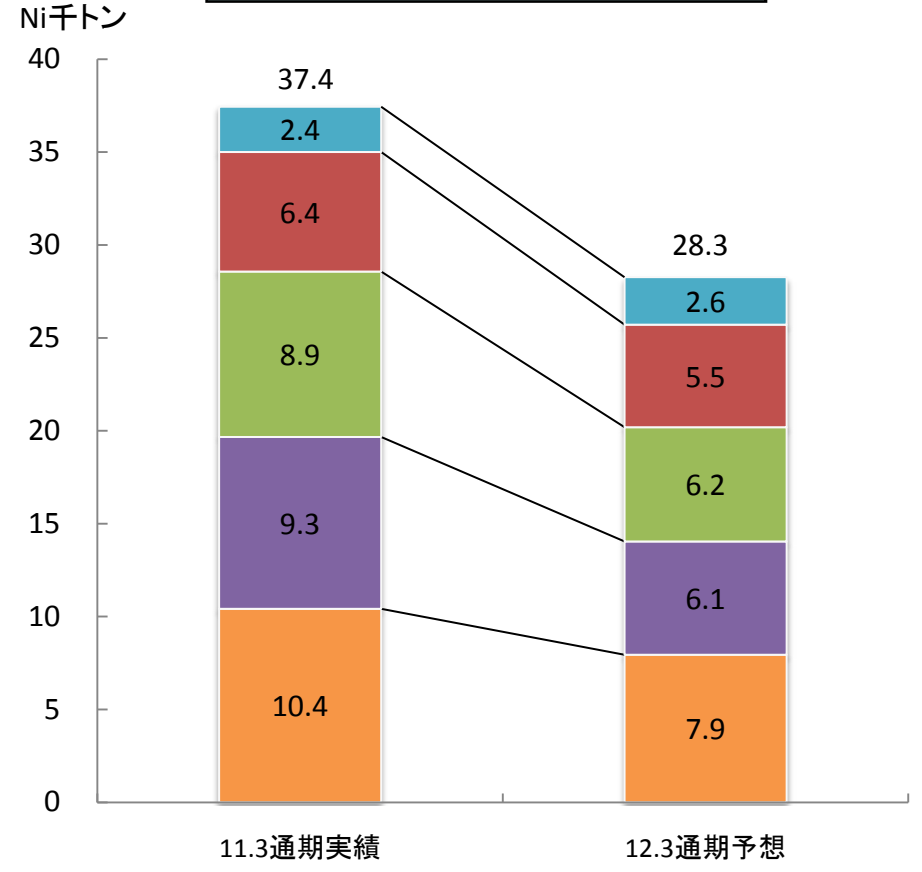
当社のフェロニッケル販売数量(国別)実績

11.3期実績～12.3期予想推移(半期)



国内 韓国 台湾 中国 インド

11.3期実績～12.3期予想推移(通期)

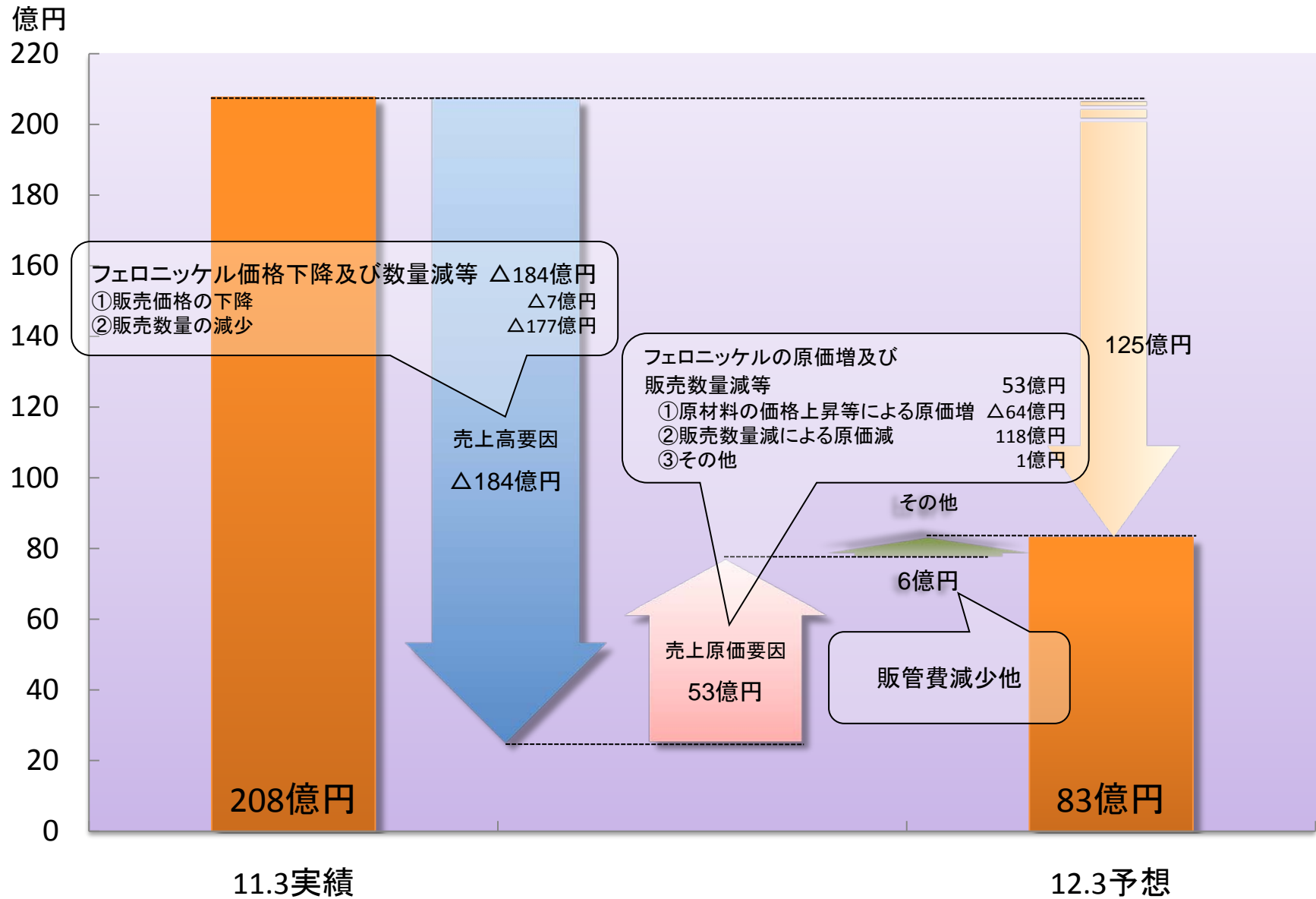


国内 韓国 台湾 中国 インド



◆ 12.3期 決算見通し

4.連結経常損益の分析〔11.3実績対12.3予想〕

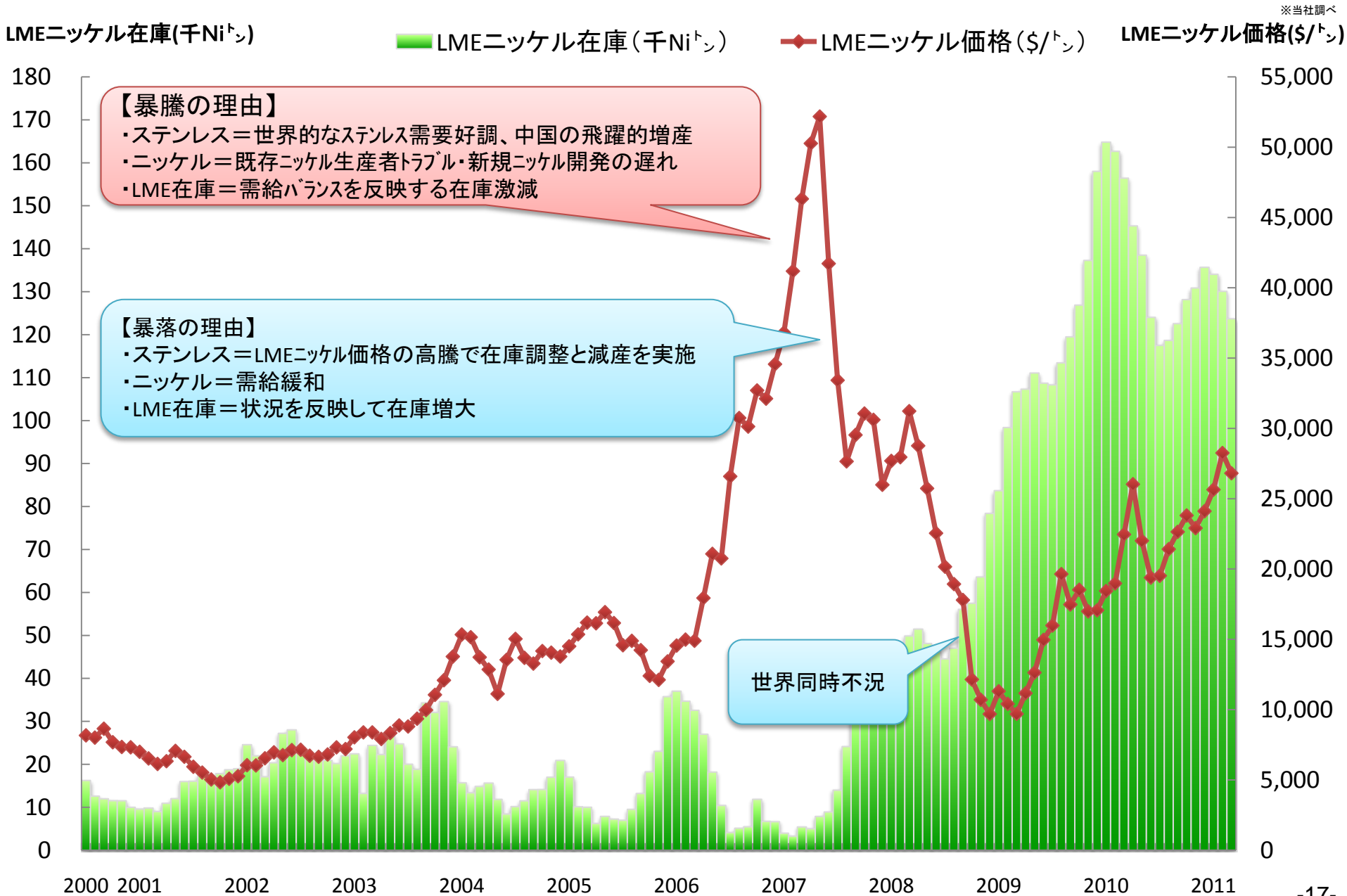




## IV 今後のニッケル需給の見通しについて

# ◆今後のニッケル需給の見通しについて

## 1. LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移(2000年～2011年)

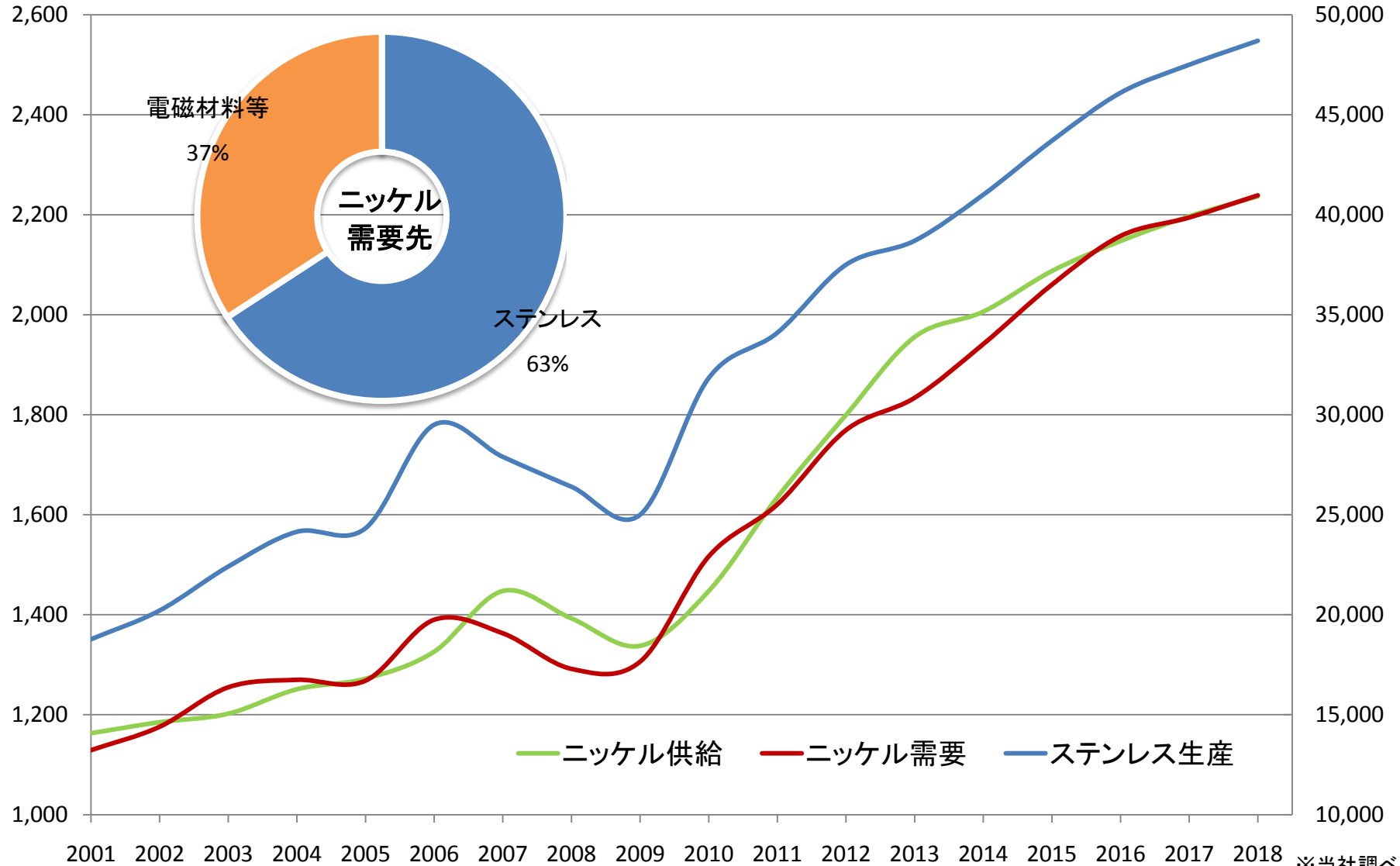


# ◆今後のニッケル需給の見通しについて

## 2. 世界のステンレス生産とニッケル需給

ニッケル需給(千t)

ステンレス生産(千t)



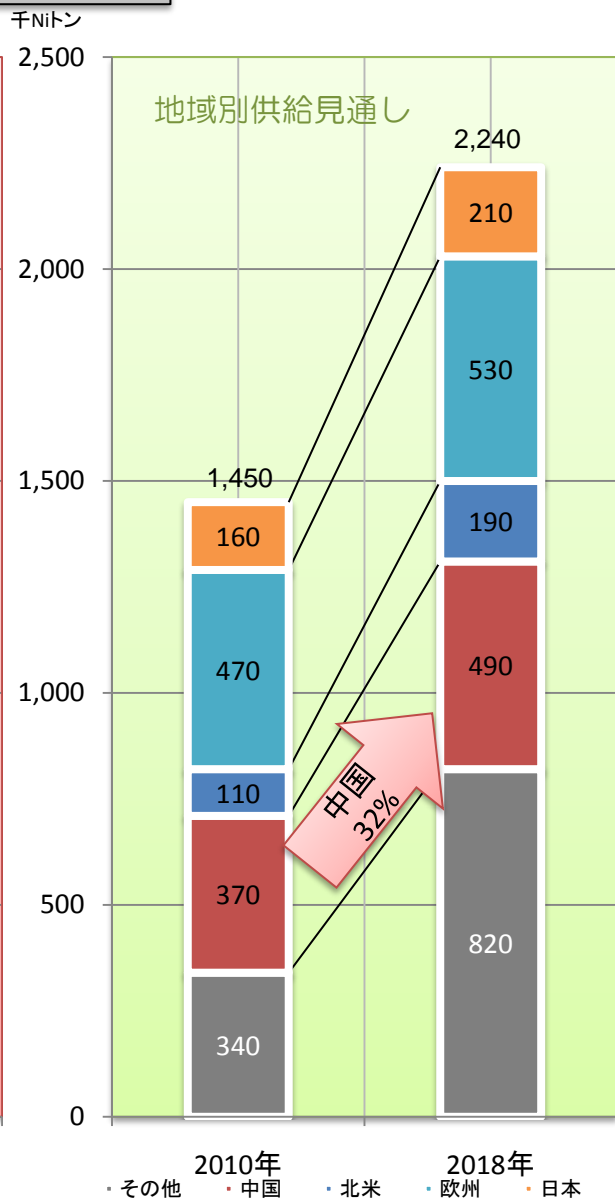
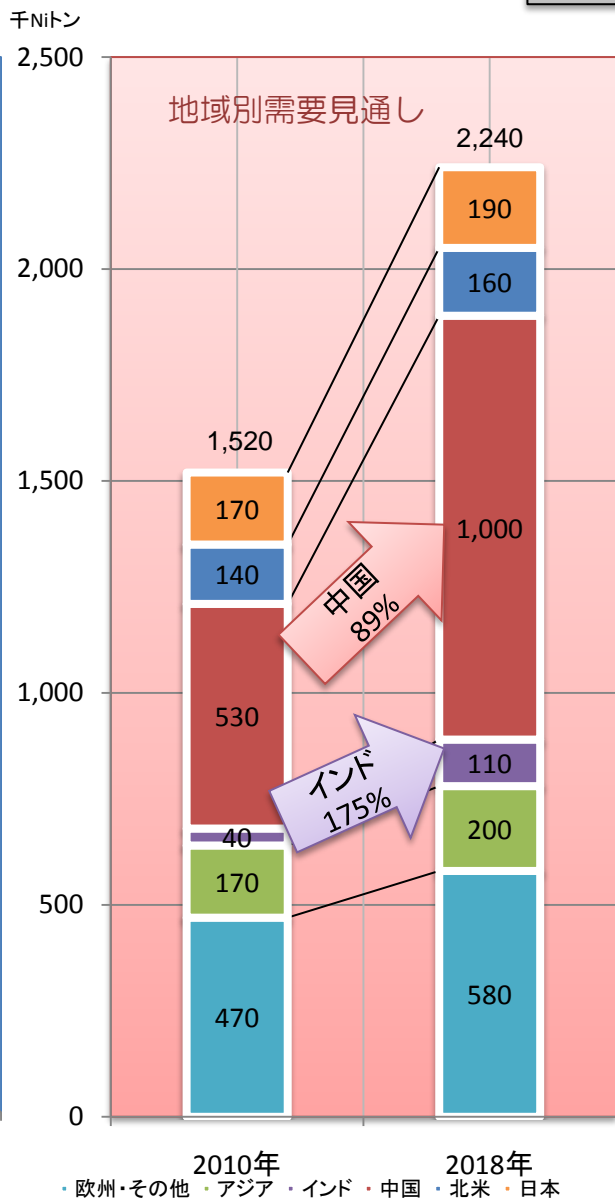
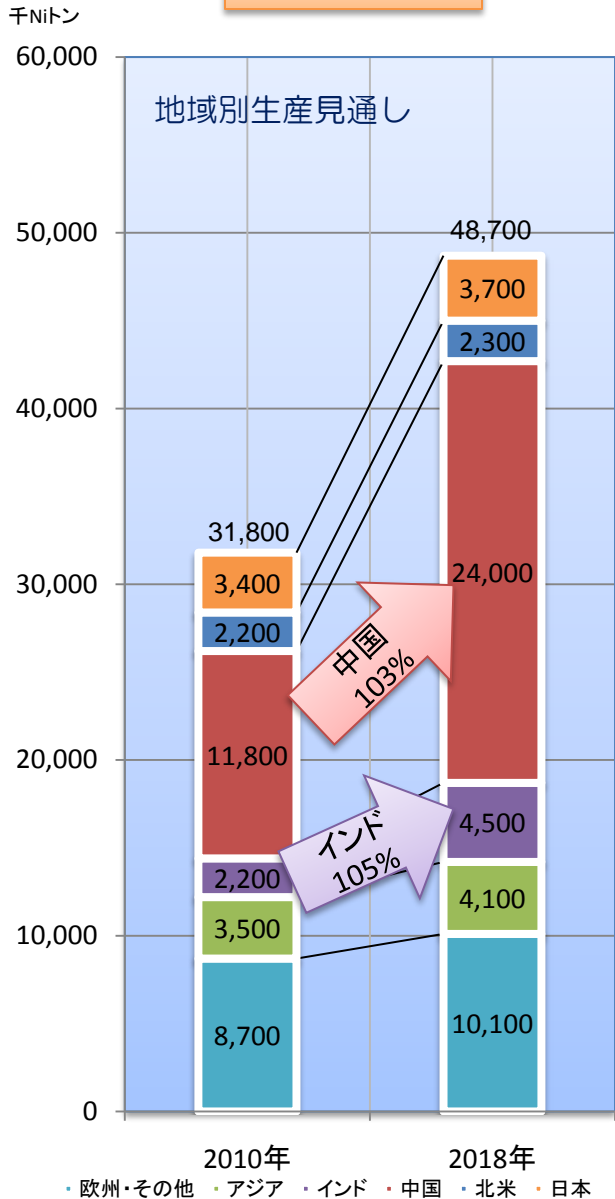
※当社調べ

# ◆今後のニッケル需給の見通しについて

## 3.地域別ステンレス・ニッケル需給見通し

ステンレス

ニッケル



※当社調べ

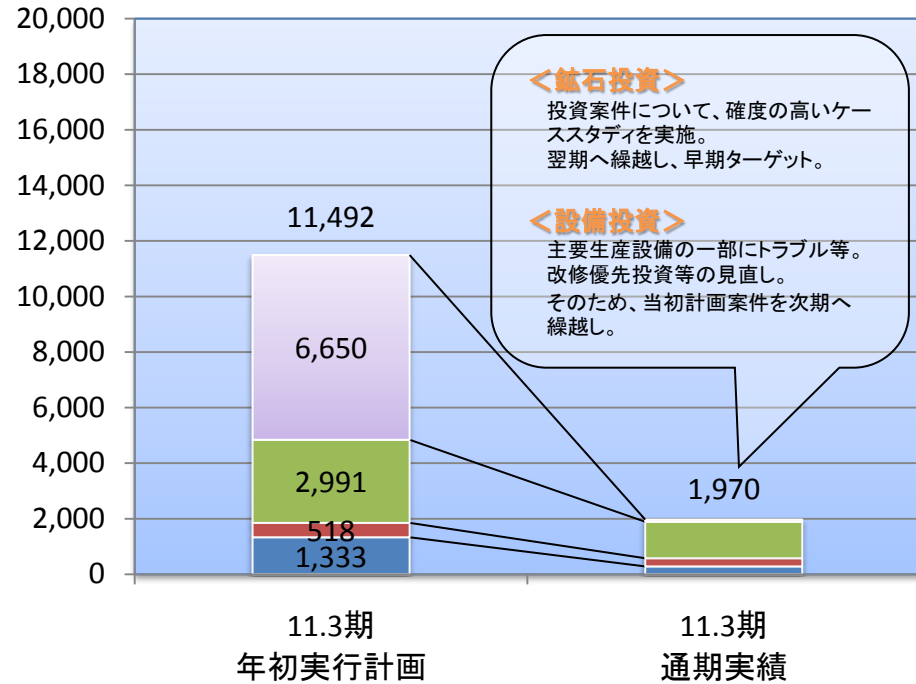


# V 経営課題への取り組み

# ◆投資内容

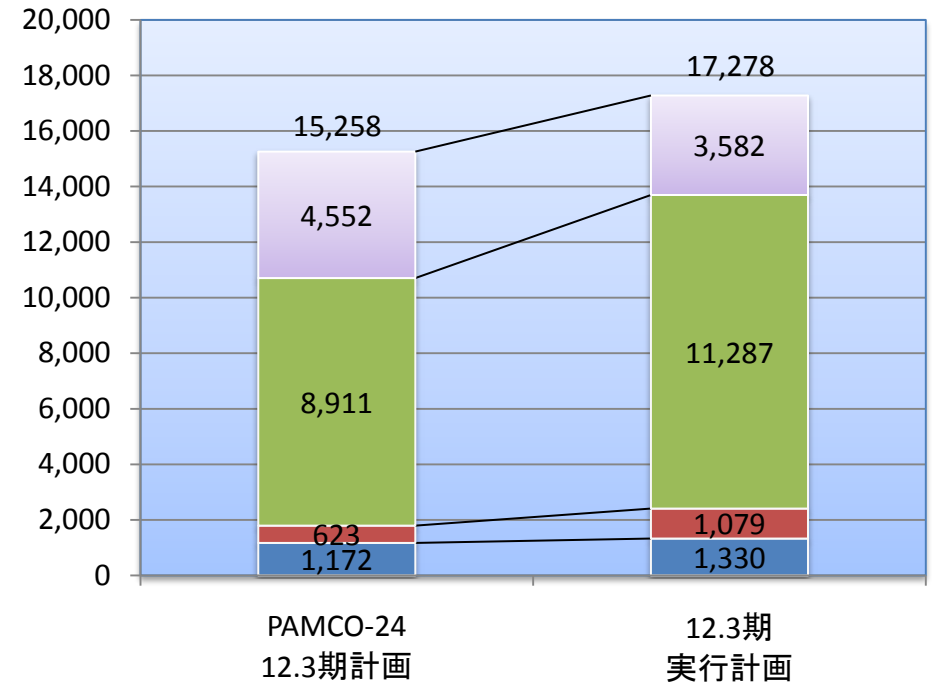
単位: 百万円

## 年初実行計画と11.3期実績比較



単位: 百万円

## PAMCO24投資計画と12.3期実行計画比較



■ ①労働安全衛生 ■ ②環境対策 ■ ③維持更新投資 ■ ④資源調達  
 単位: 百万円

■ ①労働安全衛生 ■ ②環境対策 ■ ③維持更新投資 ■ ④資源調達  
 単位: 百万円

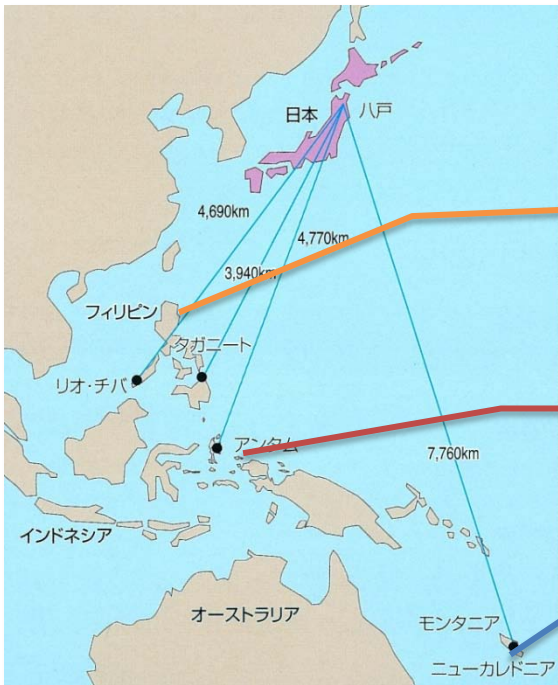
	11.3期 年初実行計画	11.3期 通期実績	比較
①労働安全衛生	1,333	284	△1,049
②環境対策	518	294	△224
③維持更新投資	2,991	1,313	△1,678
④資源調達	6,650	79	△6,571
合計(工事ベース)	11,492	1,970	△9,522

	PAMCO-24 12.3期計画	12.3期 実行計画	比較
①労働安全衛生	1,172	1,330	158
②環境対策	623	1,079	456
③維持更新投資	8,911	11,287	2,376
④資源調達	4,552	3,582	△970
合計(工事ベース)	15,258	17,278	2,020



# ◆安定した鉱石調達への取組み

## 1. ニッケル鉱石安定調達策



**<フィリピン>**

- ・リオ・チバ・ニッケル社及びタガニート社と新鉱区の探鉱開発推進
- ・他社新鉱区での買鉱、探鉱、開発に関する支援
- ・2008年4月フィリピン事務所開所
- ・リオ・チバ・ニッケル社—36%の出資
- ・タガニート社—33.5%の出資

**<インドネシア>**

- ・アンタム社鉱山での技術支援
- ・新鉱区での探鉱開発支援
- ・2008年10月ジャカルタ事務所開所
- ・アンタム社—出資(インドネシア政府65%)

**<ニューカレドニア>**

- ・新鉱区での探鉱支援と開発

**I 探鉱・開発の早期実現**

開発エリアにおける集中的な探鉱強化。供給先を含め、技術面・資金面の支援も。

**II 現鉱山からの調達**

安定的な調達を維持するための関係強化。資源国の輸出規制に関する対応策の確立。

### 長期購入契約締結 (随時更新)

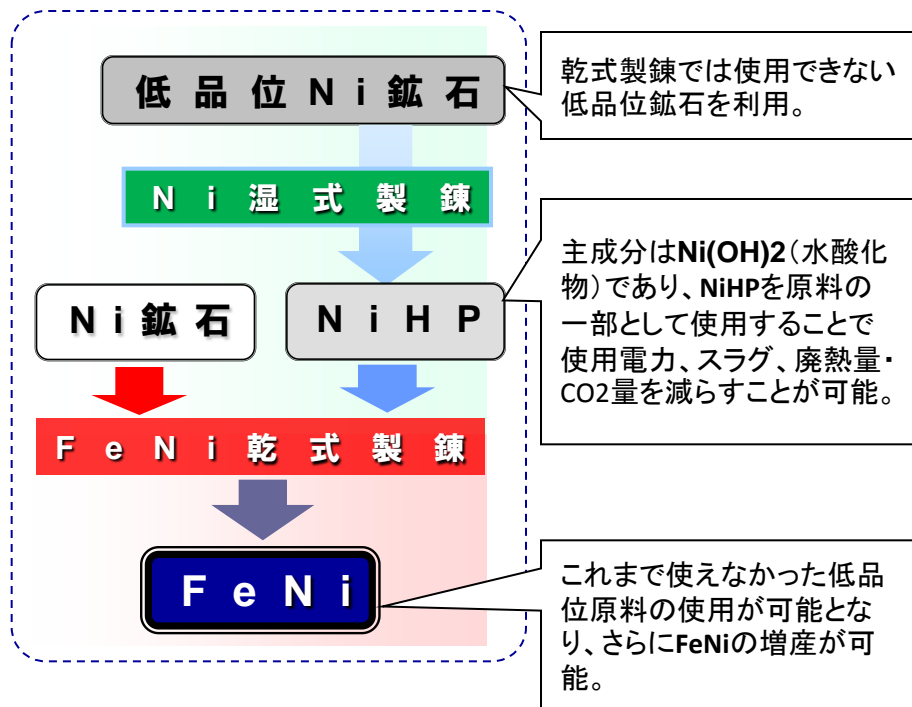
購入先	09年 3月期	10年 3月期	11年 3月期	12年 3月期	13年 3月期	14年 3月期	15年 3月期	16年 3月期	17年 3月期
<フィリピン> リオ・チバ・ニッケル社	08年1月～12年12月(5年間)								
<フィリピン> タガニート社	01年1月～10年12月(10年間)			11年1月～15年12月(5年間)(契約更新)					
<フィリピン> カグジャナオ社	11年1月～15年12月(5年間)								
<インドネシア> アンタム社	07年6月～14年5月(7年間)								
<ニューカレドニア> モンタニア社	06年4月～16年3月(10年間)								

# ◆安定した鉬石調達への取組み

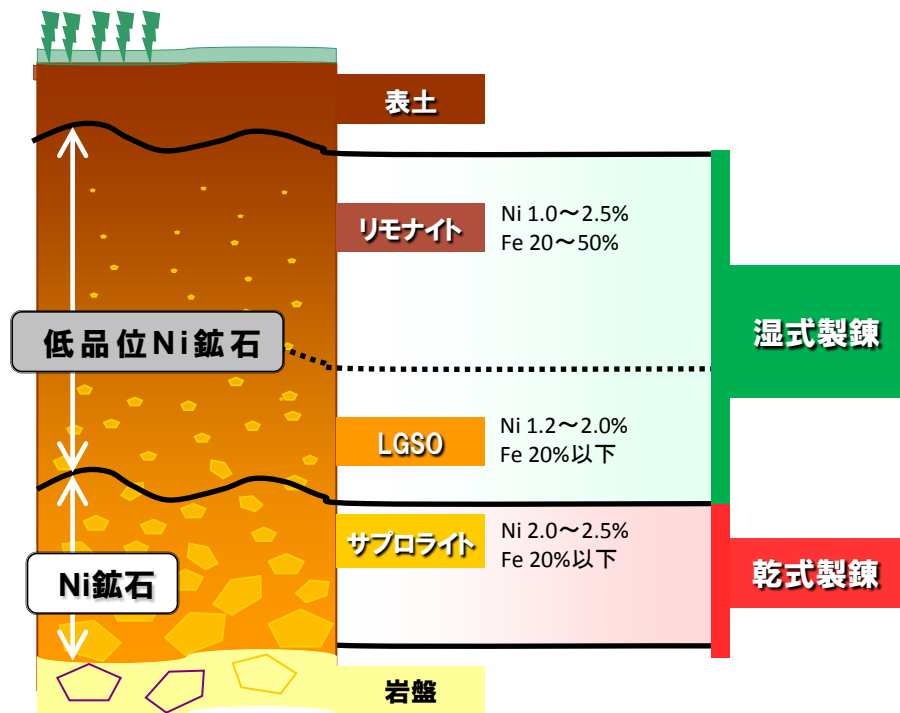
## 2. 湿式製錬への取組み-1

湿式製錬とは、化学処理によるニッケルの濃縮・抽出方法。  
 現地山元で湿式製錬し、品位を上げた中間産品を八戸で乾式製錬することにより低品位鉬石を活用可能。

### ①位置付け



### ②酸化ニッケル鉬石別製錬法



# ◆安定した鉱石調達への取組み

## 2. 湿式製錬への取組み-2

### <当社独自の常圧浸出技術確立へ向け順調に進行中>

12年9月、パイロットプラントによる常圧浸出技術の確定を目指す

鉱石スラリータンクとNi浸出反応装置



震災の影響により  
施設に損傷。  
約半期の遅れ。

12年9月

- 中間製品化の確立
- 当社常圧浸出法の確定
- 環境基準のクリア
- 各種点検方法の確立

11.3期

- 硫酸使用による中間製品実証試験開始
- 各種点検方法の確立

パイロットプラントの完成  
(投資額88億円)

~10.3期

### 将来構想

- FeNi製造時のエネルギー使用量、CO2ガス発生量、スラグ発生量の低減化
- 既存の乾式設備を使用したまま、FeNiを増産

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。